

研究課題名	軽症脳梗塞において神経脱落症状が障害を残すかどうか判定するための National Institute Health Stroke Scale 各項目が3ヶ月後後遺症に及ぼす効果の推定
倫理委員会承認番号	297
当院の研究責任者（所属）	寺澤 由佳（脳神経内科）
他の研究機関および各施設の 研究責任者	国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長 田中智貴 京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻 教授 今中 雄一
本研究の目的	軽症の脳梗塞患者において、どの神経脱落症状がどの程度あれば、生活上の障害が残るのかを調べること。 本研究で、軽症でも治療のメリットがデメリットを上回る患者を判定することで、最適の医療を届けることが出来るようになることが期待される。
調査データの該当期間	2011年1月～2023年12月
研究の方法（対象者）	当院に入院した軽症脳梗塞患者
研究の方法（使用する情報）	年齢, 性別, 発症前と3ヶ月後のADL(mRS), 入院時重症度(NIHSSスコア下位項目と総点), 併存症（高血圧, 脂質異常症, 糖尿病, 慢性心不全, 末期腎不全), 脳卒中既往, 喫煙, 脳卒中病型 など
試料／情報の他機関への提供	個人を特定できる情報を削除し、共同研究機関である国立循環器病研究センターに電子的に送付。
個人情報の取り扱い	データの解析および研究成果の発表・公表においては、個人を特定できる形としない。
本研究の資金源（利益相反）	なし
備考	